

1 各種調査の追加について（案）

1-1 市民の利用実態およびニーズ把握調査

1-1-1 高校1年生アンケート調査

市民アンケートの補足調査として、高校への通学における移動実態や公共交通に対する要望等を把握するため、高校1年生を対象にしたアンケートを実施する。概要は以下のとおり。

[高校1年生アンケート（案）]

項目	概要	
対象	市内の高校1年生（今年度16歳を迎える人が対象）（約330名：H27国勢調査）	
調査方法	郵送配布・郵送回収	
設問内容	属性	<ul style="list-style-type: none"> 性別、居住地、通学先（高校名）、家族の送迎環境の有無
	通学時間帯	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の学校到着時刻、帰宅時の学校出発時刻（立ち寄り先があれば立ち寄り先の出発時刻）
	立ち寄り行動	<ul style="list-style-type: none"> 頻繁に立ち寄る施設（塾、商業施設、文化施設等）
	通学手段	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の移動手段 公共交通の利用の有無
	公共交通に対する意向	<p>【公共交通利用者に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅やバス停までのアクセスに関する改善要望（自宅付近から最寄りの駅・バス停まで運行する交通サービス、鉄道とバスとの乗り継ぎ時間の改善、時刻表・路線図などの情報提供 など） <p>【公共交通未利用者に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用しない理由（公共交通の交通費が高い、通学時間帯のダイヤが合わない、自宅付近に公共交通が運行されていない など）
通学に対する保護者の意向	<ul style="list-style-type: none"> 現在の通学に対する心配事や困りごと（自転車での通学は事故等の懸念がある、毎日朝夕の送迎が大変、駅までのアクセスがない・便数が少ない など） <p>【子供を送迎している保護者に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通での通学環境が形成された場合の保護者のメリット（送迎の苦勞が軽減される、就業機会が向上する など） 	

1-1-2 路線バス利用者アンケート調査

堀川バス 瀬高～柳川線を対象に、利用区間や利用時間帯の濃淡を把握する乗り込み調査並びに利用者の外出目的や改善要望等の意向を把握する路線バス利用者アンケート調査を実施する。

[路線バス利用者アンケート調査（案）]

項目	概要	
対象	堀川バス 瀬高～柳川線 全便 平日 1 日間	
調査方法	調査員が乗り込み、カウント及びアンケート調査票の配布を実施 アンケートは郵送で回収する	
把握内容	利用状況（カウントでの把握）	・バス停毎の乗降者数
	利用状況（アンケートでの把握）	・利用目的、利用頻度、目的地 など
	バスサービス等へのニーズ	・路線バスに対する要望 ・公共交通に関する自由意見 など
	属性	・年齢、性別、障害の有無、運転免許保有状況 など

1-1-3 駅利用者アクセス特性調査

市内の鉄道駅（JR3 駅、西鉄 2 駅）を対象に、通勤・通学時間帯の鉄道利用者のカウント調査を実施し、鉄道利用者のアクセス特性を把握する。

[駅利用者アクセス特性調査（案）]

項目	概要	
対象	JR：瀬高駅、南瀬高駅、渡瀬駅 西鉄：江の浦駅、開駅 計 5 駅 平日 1 日間	
調査方法	調査時間：6:00～9:00、16:00～21:00 計 8 時間 駅利用者を属性別、アクセス手段別にカウント	
把握内容	属性	・学生、通勤客の別
	アクセス手段	・送迎、徒歩・自転車、その他の別